

# 日本研究・知的交流事業概観

## 1——日本研究機関の支援

各国において日本研究の中核的な役割を担う機関が、その研究基盤を強化し優れた人材を育成できるよう、各機関のニーズに応じて、客員教授派遣、研究・会議助成、教員拡充助成、図書拡充などを組み合わせた包括的な支援を実施しました（P.29参照）。

### ①日本研究機関支援 67機関

支援……67機関（32カ国・1地域）

東アジア…ソウル大学／高麗大学／南開大学／復旦大学など  
東南アジア…インドネシア大学／チュラロンコン大学／タマサート大学／フィリピン大学／マラヤ大学／ハノイ国家大学など  
南アジア…ジャワハルラル・ネルー大学／デリー大学  
大洋州…オーストラリア国立大学／オークランド大学  
北米…カリフォルニア州立大学（サンタバーバラ校）／デューク大学／コロンビア大学／ファーマン大学／ウォータールー大学など  
中南米…エル・コレヒオ・デ・メヒコ／サンパウロ大学など  
西欧…ヴェネツィア大学／ロンドン大学東洋アフリカ研究学院／バルセロナ自治大学／ボン大学／パリ国立政治学財団など  
東欧…ザグレブ大学／ブカレスト大学／極東国立総合大学など  
中東…テヘラン大学／カイロ大学／アインシャムス大学

### ②北京日本学術研究センター事業

北京外国語大学に設置された北京日本学術研究センターに対して、日本人教授など、のべ14名を派遣して講座の運営を行ったほか、大学院生22名の日本への招へい、研究・出版に対し支援を行いました。また北京大学に設置された現代日本研究センターに日本人教授のべ12名を派遣したほか、大学院生・講座関係者22名を日本に招へいしました。

## 2——日本研究フェローシップ

長期……学者・研究者138名（37カ国）・博士論文執筆者134名（34カ国）

短期……研究者54名（29カ国）

国際交流基金は、設立当初より日本に関わる研究を行う学者・研究者を日本に招へいするフェローシッププログラムを実施しており、これまでに4,700名以上が海外から日本を訪れて研究や調査を行い、日本の専門家との人的ネットワークを築いています。2011年度は合計326名のフェローが日本での調査研究活動を行いました（P.29参照）。

## 3——日本研究ネットワーク強化

主催……8件

助成……25件

国および専門分野を越えた日本研究者の横断的な協力・連携ネットワーク形成のため、第2回東アジア日本研究フォーラムや震災

復興をテーマにした日本研究セミナーなどを開催しました。

また、国際的な日本研究学会に対する支援や、韓国、米国における日本研究者・日本研究機関に関する調査を実施しました（P.28参照）。

## 4——知的交流会議などの開催・支援

国際会議・知的対話事業の企画・実施……26件

会議開催経費・参加者旅費の支援……198件（人材育成成功含む）

世界・地域の共通課題に取り組むため、以下をはじめとする知的交流事業の開催と支援を行いました。

### ①中国知識人グループ招へい

中国の知識人と、日本側関係者との未来的な知的ネットワークの構築を目的とする事業。これまで日本との接触が多くなかったが対日理解・関心を促すことに長期的な効果が期待される国際問題等の専門家を、グループや個人で招へいし、日本人研究者との意見交換・各種機関訪問・地方都市訪問などを実施しました。

### ②東南アジア若手イスラム知識人グループ招へい

インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、シンガポールで次世代を担うイスラム知識人と目される若手研究者9名が、日本を例にとった社会の近代化とイスラムの調和をテーマに、日本の研究者による講義や意見交換などを通して日本理解を深めました。

### ③日印文明対話公開シンポジウム

日本とインドの知的交流を一層強める「日印文明対話」事業の端緒として、「アジア・ルネサンス—渋沢栄一、J・N・タタ、岡倉天心、タゴールに学ぶ」をテーマに、2011年12月にシンポジウムを東京で開催しました（共催：国際文化会館）。

### ④講演会「復興のためにアートは何かできるか」

東日本大震災の被災者の仮設住宅で実施したアートプロジェクト（P.30参照）に参加した日系ブラジル人アーティストのチチ・フリーク氏の講演会を2012年3月にブラジルのサンパウロ及びクリチバで開催しました。被災地の現状と復興の様子、アートによる社会貢献などについて活発な議論が交わされました。

### ⑤日独シンポジウム「東日本大震災と新旧メディアの役割」

2011年7月にベルリンにて、日独のジャーナリストおよび研究者が東日本大震災および福島原発事故に関する報道の国際比較や災害時のメディアの役割について論じるシンポジウムを開催しました（共催：ベルリン日独センター）。

### ⑥日本・韓国・欧州多文化共生都市国際シンポジウム

文化的多様性を街の活力の源泉とする「インターカルチュラル・シティ」の取り組みが進む欧州と文化共生に積極的な日本と韓国の地方自治体から、首長および実務家が集まり、2012年1月に東京でシンポジウムを開催しました（共催：欧州評議会）。

## 5——知的リーダー交流

招へい……54名(32カ国)

日本との知的対話のネットワーク構築を目的として、海外の研究者や専門家に訪日調査・研究などの機会を提供しました。

### ①アジア・リーダーシップ・フェロースHIPプログラム(7カ国7名)

アジア各国で活躍する知識人が東京で2カ月間をともに過ごす対話を重ねる事業(共催:国際文化会館)。2011年度は、「対話するアジア:思いやりある社会の創造をめざして」を総合テーマに7名が参加。被災地訪問なども通じ、災害に際して知識人が果たすべき役割や国や地域を越えた連帯について議論を重ねました。

### ②中東次世代リーダー招へい(3カ国16名)

民主化が進むエジプト、ヨルダン、チュニジアの若手リーダーを日本に招へいし、被災地で復興に取り組む日本人関係者との意見交換を通じて、市民主導の社会の構築に際してのリーダーシップのあり方を考える機会を提供しました。(P.30参照)

### ③知的交流フェロースHIP

フェロースHIP……31名(23カ国)

日本との知的対話のネットワーク構築を目的として、現代社会に共通する課題を研究する東欧、中東及びアフリカ地域の人文・社会科学の若手研究者に、訪日調査、研究の機会を提供しました。

## 6——21世紀東アジア青少年 大交流計画(JENESYS) 受託事業

ASEANを中心とする東アジア地域の若手リーダー層を招へいし、東アジアにおける重要な共通課題について、日本の実例を共有しての活発な議論が行なわれました。

### ①「エネルギー安全保障:東アジアにおける地域協力の進展」

19名(13カ国)

### ②「防災と人々のつながり:災害に強い社会の構築を目指して」

25名(15カ国)

### ③「エネルギー安全保障:持続可能なエネルギーシステムの構築を目指して」

23名(13カ国)  
また、日本研究(東アジア研究を含む)を専攻する大学院生20名(10カ国)を招へいし、日本についての講義及び視察の機会を提供しました。

## 7——日米センター

「日米両国の共同による世界への貢献」および「日米関係の緊密化」を目的に、以下のような活動を行っています。

主催・共催……6件

### ①安倍フェロースHIP

日米の研究者など12名にフェロースHIPを供与し、現代の地球

規模の政策課題で緊要の取り組みが必要とされる問題に関する調査研究を促進し、日米の新しいパートナーシップとネットワーク形成を推進しました。またジャーナリストによる、掘り下げた調査研究を通じて、日本および米国の相互理解に貢献する報道を支援する安倍ジャーナリスト・フェロースHIPに4名を採用しました。

### ②日米草の根交流コーディネーター派遣(JOI)プログラム

日本との交流機会が比較的少ない南部や中西部地域における草の根レベルの交流や日本理解の促進を目指し、新たに6名のコーディネーターを派遣しました。そのほか「日系アメリカ人リーダーシップ・シンポジウム」「米国アジア研究専門家招へい事業」(参照P.31)などを実施しました。

## 助成

### ①助成プログラム

プログラム……121件

日米共通のあるいは地球規模の課題について実施される日米共同プロジェクトを募集し、16件に対して助成を行いました。

また、東日本大震災からの復興と防災をテーマとする取り組みへの支援を決定し、震災の犠牲となった米国人外国語指導助手(JET)記念事業や震災デジタル・アーカイブ事業など12件を助成しました。

さらに、米国における小規模助成を36件(知的交流助成10件、草の根交流4件、日本理解促進22件)実施。全体として、「日米アジアジャーナリスト会議」(参照P.31)などの企画参画型助成や昨年度からの継続案件も含め合計121件を助成しました。

### ②日米同盟深化のための日米交流強化イニシアティブ

2010年11月のオバマ大統領訪日の際に発表された「日米同盟深化のための日米交流強化イニシアティブ」の一環として、上述の「米国アジア研究専門家招へい事業」(主催)の他、米国の有力シンクタンクとの関係強化(助成)、米国の大学生の訪日研修を支援する助成事業(10件)を実施しました。

## 8——日米文化教育交流会議(カルコン)

日米文化教育交流会議(The United States - Japan Conference on Cultural and Educational Interchange:略称CULCON:カルコン/米側事務局は日米友好基金:Japan-US Friendship Commission)は、2011年5月に、ワシントンD.C.において、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院(SAIS)との共催により、シンポジウム「日米パートナーシップの深化:変貌する世界に於ける教育と文化の絆」を開催しました。